（C）日刊スポーツ新聞社

柔道男子日本代表監督

2020年東京五輪へ 300人リレーコラム 7人目

題字は北島康介 自筆

井上康生 36

2020年東京五輪の開催が決まったときは、うれしいなと同時に、やっと来たなと思いました。1964年から何回も挑戦してようやくですから。

柔道はその64年から正式種目となりました。講道館柔道の創始者である嘉納治五郎師範がIOC国際オリンピック委員会委員として尽力してきた一つの成果として、悲願の採用でした。それが去年日本に帰ってきます。そこに何らかの形で携われるかもしれない、非常に特別な思いがあります。会場は再び日本武道館ということですから、歴史的なことです。

64年は無差別級でヘーシンク選手（オランダ）が決勝で神永昭夫さんを破って優勝しました。あの日は、日本柔道が世界に敗れた日であると同時に、日本の柔道の出発点でもあるとも思います。なぜ日本で柔道が生まれたのか、どんな立場でそれが成立したのか、柔道とは何なのかを、今の6年間の計画というのは強い思いがあります。

化方針として立っています。だから、健康は気を付けていたい。界の柔道でいえば、日本も世界の柔道でもあるとも思っています。

もちろん、今度は勝たせたいと思って監督をします。高校時代（8月）を視察しましたが、6年後にはいたいなと思います。そこに今の柔道選手の姿を見たいと思います。立場でいえば、今度は今後の6年間の計画というのは強い一般の方も何をやっているかが、身近に感じて、みんなで成功させたいですね。

日本柔道が敗れた武道館で優勝を

次回は9月10日 震災から3年半 64年五輪に出場した東北選手の言葉

（取材・構成＝岡部健吾）

6年間毎週水曜ぶっ続け　花のお江戸で五輪でい

6年輪しょいっ!! 2020 TOKYO五輪 7

2017 2016 2015 2014 2019 2018

昨年9月7日（日本時間8日未明）、日本中の視線が南米アルゼンチンの首都ブエノスアイレスに集まった。国際オリンピック委員会（IOC）の総会でロゲ会長の口から「TOKYO」と動いた時、20年五輪パラリンピックの東京開催が決まった。福島原発の汚染水問題で、一時は「絶望的」とも見られた東京招致。大逆転は「オールジャパン」の力で生まれた。6年後の五輪開催に向けて再び「オールジャパン」の結束力が必要だ。1年前の招致の裏側を振り返る。

逆転招致 19日間の裏側

世代超えてつながる思い　1964年と同じ　オール日本でつかんだ

嘉納治五郎氏の存在

決定招致へ一本　今から50年前、64年東京五輪の開催は59年5月26日にドイツ・ミュンヘンで行われたIOC総会で決定した。JOCの竹田恒和徳委員長は現JOC竹田恒和会長の父、招致を後押しした岸信介首相は安倍晋三首相の祖父。半世紀を超える五輪への思いが2回目の東京開催を実現させた。

64年招致成功には、講道館柔道の創始者である嘉納治五郎師範がIOC国際オリンピック委員会委員として尽力してきた一つの成果として、悲願の採用でした。それが去年日本に帰ってきます。そこに何らかの形で携われるかもしれない、非常に特別な思いがあります。会場は再び日本武道館ということですから、歴史的なことです。

64年は無差別級でヘーシンク選手（オランダ）が決勝で神永昭夫さんを破って優勝しました。あの日は、日本柔道が世界に敗れた日であると同時に、日本の柔道の出発点でもあるとも思います。なぜ日本で柔道が生まれたのか、どんな立場でそれが成立したのか、柔道とは何なのかを、今の6年間の計画というのは強い思いがあります。

63年5月7日、IOCの委員を受け佐川急便五郎組委員長（中央）から田恒和JOC委員長（左）から2人目に東京五輪の招致状第1号を渡された。左から4人目は与謝野秀事務総長

アジア人初のIOC委員でもある嘉納治五郎師範（写真は共同）の存在もあった。戦局悪化で迎えた40年東京五輪の招致に尽力し、38年にカイロIOC総会の帰路、氷川丸の船中でたくなった。偶然にも最後をみとった元外交官の平沢和重氏が64年の最終プレゼンの登壇者となった。

日本中が64年五輪招致決定にわいた翌日、日体協の栗本義彦事務理事は嘉納師範の墓前に「先生の長い間の願いが、かないました」と報告した。嘉納師範は40年大会が決定した瞬間、喜びに沸く招致団の中で「1人目を閉じ「これからが大事だ」とつぶやいたと伝えられている。

決定34　落選10　落選9　落選5　ウィーン（オーストリア）　ブリュッセル（ベルギー）　デトロイト（米国）

◆64年東京大会開催地投票◆

秘蔵写真

59年5月26日、ミュンヘンでのIOC総会で東京五輪開催が決まり、日体協関係者が集まり万歳

59年5月27日、五輪開催が決まり電話で喜び合う分かち合う、近藤天IOC総務委事代理

59年5月27日、東京五輪招致に尽力した嘉納治五郎元IOC委員の墓前に決定を報告する栗本義彦日体協理事

13年9月7日、20年五輪の開催都市が東京に決まり、笑顔で写真に納まる安倍晋三首相（前列右から3人目）ら。同4人目が猪瀬直樹都知事、同5人目は滝川クリステル、右は小谷実可子さん

IOCロゲ会長（左）から盾を受け取る竹田招致委員会理事長

プレゼンテーションで東京招致をアピールする安倍首相

五輪開催が東京に決定し、涙を流して喜ぶ体操の田中理恵さん。左は滝川クリステル

プレゼンテーションで東京招致をアピールする佐藤真海

9.7「おもてなし」公約守れるか

◆20年五輪の立候補都市の得票数◆

◆1回目42票 決選60票予想通りに

最後のプレゼンは、日本も深夜にテレビ中継された。各国のIOC委員から拍手喝采された。会場でもあるとも思います。

今度は勝たせたいと思って監督をします。高校時代（8月）を視察しましたが、6年後にはいたいなと思います。そこに今の柔道選手の姿を見たいと思います。立場でいえば、今度は今後の6年間の計画というのは強い一般の方も何をやっているかが、身近に感じて、みんなで成功させたいですね。

（取材・構成＝岡部健吾）

9.6 深夜まで笑顔で伝えた熱意

決戦前の説得

招致の「女神」高円宮妃久子さまが現地入りしたのは、4日だった。日本サッカー協会名誉総裁としてアルゼンチン協会との友好記念行事参に出席する渡航で、費用は日本サッカー協会が持ち、「ただまた」、同時期のJOC総会出席は招致活動ではなく、被災地支援の感謝を伝えるためとされた。皇室の力を借りた招致委員会と政治利用を避けたい宮内庁との間で生まれた妥協策だった。

プレゼン冒頭のスピーチは、IOC委員の心に響いた。ただ、舌鋒は、それだけではなかった。5、6日とホテルでIOC委員と個別に面会した。1人15～20分で約40人、夜はラウンジでIOC委員と懇談、直接招致の話はしなくても、熱意は伝わった。

深夜、部屋に戻ろうとした招致関係者に対して「（勝負は）夜12時からですよ」と、笑顔で応えたという。

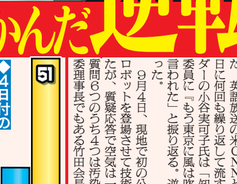
最後の詰めは、各首相だった。汚染水問題を乗り切り、安倍首相は、安全を強調する首相の一言が必要。招致委員会は、プレゼンに盛り込んでもらうことで一致していたところ、内閣官房長官にもつながらず直前のプレゼンの発信が決まったのは、前夜だった。この間、いろいろ前から日本の票読みは完璧だったが、情報はすべてホテルの一室に集まる。最終本部に集まる。全IOC委員について○△×が付され、それぞれ41、42票、決選投票に進むのは、ほぼ確実だった。

ただ、「招致委員の感謝の言葉」を、委員から正確な情報を得るために、彼らに顔が利くJOC委員が活躍した。8月初の「1回目41、42票、決選投票60票近くという読みは、結局最後まで変わらなかった。汚染水問題で、日本は動かなかったが、そこで、その前の結果となった。汚染水の不安は残ったが、招致委の水野正人副理事長は胸を張った。

「1回目41、42票」読み変わらず当日へ

9.4 マドリード決定の勇み足

◆4日付のスペイン紙の票読み◆



◆流出本当なら 競の移動は…◆

◆ビゼール氏の票がマドリードへ？

8.28 頼みの20票寝返ったか…「上村と行け」

招致委の第一陣がブエスアイレスに向け出発した28日、都内で行われた会議は重苦しいムードに包まれていた。汚染水問題にマドリードの巻き返しと、東京支持のはずだった国際委員連盟のビゼール会長が「マドリードに入れてくれたらIOC委員が持つ票は20ともいう。同氏が、自民党五輪推進本部長の鳥居敦衆院議員に声をかけた。「すぐにリオデジャネイロに行け。上村、春樹前事務総長は写真」を連れて行けと。上村氏は全案連の不祥事で会長職を辞任中だ。

◆何事もなければ「勝てる」自信

8.20 楽勝吹っ飛んだ「汚染水」1年前の確信

13年8月末、東京、新宿の都庁に設けられた招致委員会は、IOC総会の「プレゼン準備に追われながらも楽観ムードに包まれていた。「もう間違いない。後は、何事も起きないことを祈るだけ」、ある招致委員は言った。「勝利宣言」はIOC委員の反感を買う恐れもあるから、言葉は慎重、それでも、勝利宣言は自信はみなぎっていた。

順調だった招致活動。16年大会招致失敗の反省が生きた。大きな課題とされた支持率は、13年3月のIOC調査で70%と目標をクリア。同時期に行われたIOC評価委員会の視察も問題なく終了。6月末、IOCの調査で招致委員会は12番目に。福島、福島、1原発から高濃度放射汚染水300、が漏れたことが明らかになった。招致委員会は、「転ビンを陥った。海外での報道はヒートアップ。論調は、「東京の五輪なのか、大丈夫か」。ネガティブな情報をどう乗り越えるか。「残り2週間のまり、激しい戦いが始まった。

◆招致委員会の読み◆

ベル選手が集う世界では思うような結果を残せず、全国の壁を感じました。オリンピック出場の夢は断たれましたが、娘・真由（10）が水泳、トライアスロンの選手として五輪を目指しています。夢は娘に託します。

ASA蒲田中央野村均所長（52）

目で尋ねた斉藤の勝利

名勝負

◇88年ソウル大会柔道男子95キロ超級準決勝（10月1日・愛媛体育館）

斉藤一郎（日本）　○　ヒ　ポ　ポ　ポ